EMC｜回答と条件を残す

日常記憶チェックリスト 臨床記録補助票 / 01

氏名・ID：_____ 評価日：____年____月____日

記録者：_____ 対象期間：____月____日〜____月____日

1 誰が、どの生活を振り返ったか

本人評価の回答方法	自記・読み上げ補助・その他（）
他者評価の回答者	氏名・続柄／職種：
観察・接触の条件	同居・別居／接触頻度／観察した場面：
生活環境と変化	自宅・入院・施設／退院、活動機会、家族の代行等：

2 正規用紙から結果を転記

13項目を各0〜3点、合計0〜39点。本人と他者は別々に集計します。

回答者	合計	未回答・確認事項
本人	____ / 39	
他者（）	____ / 39	

任意の比較：他者評価 − 本人評価 ＝ _____ 点 ※差だけで病識を判定しない。

3 回答の対応を確認

全くない	時々ある	よくある	常にある
0点	1点	2点	3点

出典：羽生ほか（2007）表1。対象は最近1か月。実施には正規の質問文を用います。

4 面接で取り上げる項目

項目番号	本人／他者の回答	選んだ理由・生活への影響
____	____／____	
____	____／____	

空欄・観察していない・機会がない、を便宜的に0点へ置き換えない。処理は使用する正規資料に従い、確認できなければその理由を残します。

本票はSTROKE LAB編集の転記・面接補助票です。正式な13項目の質問紙ではありません。

EMC｜出来事を具体化する

失敗と、すでに行われている援助を分ける / 02

氏名・ID：_____ 面接日：_____

5 優先する生活場面を一つ選ぶ

項目番号／本人の困りごと	
いつ・どこで・何をしようとしたか	
実際に起きたこと（発言・行動）	
情報源（本人・家族・直接観察）	
その用事の機会／困った回数	____ 回中 ____ 回／期間：
誰が、どのように助けたか	
安全・生活への影響	

6 回答差の背景を確かめる

本人と他者が見ている場面、接触頻度、活動機会、代行、本人の不安や理解を確認します。

本人が話したこと	
他者が話したこと	
一致する事実／まだ不明なこと	

次に観察する場面・確認先：

EMC｜支援と変化を記録する

点数に加え、機会・実行・援助を追う / 03

7 試す支援と確認方法

生活上の目標	
支援（道具・置き場所・合図）	
担当者／確認日	

8 生活記録

日付	用事の機会	自力で完了	援助・代行の内容
____	____ 回	____ 回	
____	____ 回	____ 回	
____	____ 回	____ 回	
____	____ 回	____ 回	

自力で完了した回数に、他者が代行して終えた回数を含めません。成功・失敗だけでなく援助内容を残します。

9 EMCの再評価

比較項目	前回	今回
回答日・対象期間	_____	_____
本人／他者の合計	____ ／ ____	____ ／ ____
他者回答者・生活条件の変化		

10 カルテ・申し送り

架空例：本人8/39、娘20/39。鍵の置き場所について、娘が週4回探して渡していた。帰宅時の定位置を決めて1週間確認する。次回は自力で戻した回数と声かけ・代行を記録し、回答差の背景を再検討する。

参考：数井ほか（2003）脳と神経55:317–325／羽生ほか（2007）日本老年医学会雑誌44:463–469。正規用紙：千葉テストセンター、日本版RBMT付属EMC。